

令和6年度地域支援センターあいづ特別支援教育研修会を実施しました

8月1日(木)に、会津地区の幼稚園・保育所(園)・こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の先生方を対象に、令和6年度地域支援センターあいづ特別支援教育研修会を実施しました。

今年度はNPO法人東京都自閉症協会役員で東京都内の特別支援学校をはじめ、高等学校や小学校で巡回相談を行っている綿貫愛子先生を講師にお迎えし、「自分らしく生きることを支える教育とは～学校現場で働く当事者からのメッセージ～」と題して、御講演をいただきました。

綿貫先生は自身が大学生のときに ASD(自閉スペクトラム症 広汎性発達障害)・SLD(限局性学習症 学習障害)・ADHD(注意欠如・他動症 注意欠陥・多動性障害)と診断を受けられました。本講演では綿貫先生の当事者としての視点からのお考え、心理学の専門家・支援者としての立場からのお考えをお話いただきました。その中で、「“〇〇の方法で支援すれば、子どもたちは□□と反応するはず”という一般論を押し付けていないか、既存の方法論がすべての子どもたちにあてはまると考えないでほしい。」というお話がありました。この言葉には、講演会実施後のアンケートに「自分のこれまでの支援や考え方を見直す機会となりました。」と感想を記入された先生方が多くいらっしゃいました。

また、「私たちの行動には必ず意味があること、周囲が“問題”と考える行動であっても、目の前の子どもたちにとっては自己調整をしようとして行っていることであり、“その行動は問題があるから(問題になるから)やめさせたい”と考えるのではなく、“その子が、なぜその行動を、いま必要としているのか”を考えてほしい。支援の手立てを考えると、支援の対象である子どもたちと物事や考えを共有しながら行う、間主観的アプローチの視点を大切にしてほしい。」と綿貫先生は参加者の先生方にお話しされていました。

本研修会には会津地域から50名の先生方にお集まりいただきました。参加された先生方には、今回の内容を各園・各学校・各所属団体で共有していただき、日々の指導支援の参考にしていただければと思います。今後も地域支援センターあいづでは地域のニーズに応じた支援に努めてまいります。

